

## 事業名 幼小中一貫教育に取り組む学校園を支援する組織の強化と支援活動の推進

目標 学校支援ボランティア活動など地域住民の意識を高めて、安定した組織を構築すること。

### 1. 取組の視点

本校区では、平成 20 年度より幼小中一貫教育に地域と共に取り組み推進してきました。また同時期に始まった学校支援地域本部事業では積極的な取組で、多くの学校園の活動に日常的に地域の方々が参加する素地ができてきました。しかし、地域の少子高齢化がさらに進み、ベッドタウンという地域特性から核家族が多数を占め、子どもたちが家族以外のおとなたちとふれあう機会はますます減少しています。そのため、本事業の取組も地域住民全体への広がりには課題が残ります。

そこで、中学校区を一貫した学校支援ボランティアの活動にさらに理解・関心を高め、持続・継続が可能な安定した組織の構築をめざし、本事業に取り組むこととしました。

### 2. 取組の概要

#### (1) ボランティア養成講座

学校支援ボランティア活動が始まって4年、各学校園では環境整備活動を中心に活動が開始されました。中でも樹木の剪定作業では、ボランティアがチームとなって通年の活動に取り組むようになりました。そこで、そのチームリーダー中心に講師をお願いし、校内を実習会場として地域住民向けに「庭木の手入れ勉強会」を開催しました。



〈庭木の手入れ勉強会実習〉

30人余りが熱心に参加し、そのうち3名が新たにボランティア活動に加わることとなりました。

また、図書室の整備活動も各学校園で取組が継続しています。地域内の奈良市立北部図書館の開催する「子ども読書ボランティア養成講座」に協力し、図書室を実習会場としたり、司書教諭のお

話を講座内容に取り入れていただきました。いずれも、学校現場での実習を取り入れたことはボランティア活動の体験につながり、新規登録者の開拓に有効であったと思われます。また、すでに活動に取り組んでいる方々からも好評を得ています。地域や年代の枠を超えた出会いが、参加した人々の活動意識の向上につながったのではないのでしょうか。



〈図書ボランティア養成講座〉

#### (2) ボランティア交流会

日々活動に参加するボランティアの方々の労をねぎらう機会とするために、「ボランティア交流会」が当初企画されました。今年度は3回目の開催となります。ここでは、学校関係者・地域協議会委員・ボランティアが一堂に会します。一年間の活動の様子が紹介され、それぞれが活動の感想を語り合い、歓談の場となりました。学校と地域が理解を深める数少ない機会ともなり、事業への理解を深める一助となっています。



〈ボランティア交流会〉

### 3. 成果と課題

上記の取組のほか、広報紙の全戸配布・コーディネーター連絡会の運営・ボランティアのミーティングなどにも工夫して取り組みました。しかし、地域住民への理解や関心の十分な広がりまでには至っていません。本事業のさらなる推進には、地域教育協議会の組織や運営・各学校園の運営委員会との関係性・コーディネーターの役割・後継人材の育成・予算の運用などに課題が残ります。

事業名

## 小中一貫教育の充実

目標

確かなつながりの中で、自ら学び続ける心豊かな子の育成を目指す

### 1. 取組の視点

昭和 47 年平城ニュータウン誕生とともに本校が創立し、まとまりのある環境の中で保幼小中の教職員・保護者の連携とともに地域住民による学校園支援ボランティア活動がこれまで行われてきました。平成 20 年度から小中一貫教育推進パイロット校として、地域ぐるみの連携体制を活かしながら小中一貫教育の研究開発に努めてきました。奈良市において 2 小 1 中の連携型（施設分離）の中学校区として初めての研究発表会を 11 月 12 日に開催するにあたり、これまで 4 年間の調査研究の成果と課題をまとめ報告することを本年度事業の柱とし、確かなつながりの中で自ら学び続ける心豊かな子の育成を目指す取組を行いました。

### 2. 取組の概要

取組の目標として、保幼小中の連続した教育実践の中で学校支援を得て豊かな体験活動に参加すること、また郷土奈良の学習成果や様々な体験活動をまとめ・報告・発表できる生徒の育成を目指し取り組んできました。

具体的な取組として、①小中一貫教育の実践や交流体験活動および講演会を通して郷土奈良を深く学ぶことに努めました。②自らの体験活動を情報科で培った ICT 機器活用力を駆使して、まとめ・報告・発表等の活動を充実させました。③英会話科における英語力を高めるため海外へのビデオレター作成等により発信力の強化に努めました。④地域への貢献活動として学校支援ボランティアとともに花いっぱい運動や地域環境美化活動を実践しました。⑤地域との確かなつながりによる豊かな体験活動を通して、郷土に愛着と誇りを育てる活動に取り組みました。

### 【小中合同地域遺産学習】 H24.2.16



奈良文化財研究所井上和人副所長を講師として招き、平城ニュータウンの歴史について講演会を開催しました。

### 【情報科による発表活動】 H23.11.12



小中一貫教育研究発表会にて情報科の公開授業を行いました。小学校 3 年生からの取組で、着実な成果が見られました。

### 【地域環境美化奉仕活動】 H24.12.10



土曜日の部活動前に、200 人の生徒が参加し、地域住民とともに総勢 500 名で環境美化奉仕活動を行いました。

### 3. 成果と課題

小中一貫教育における英会話科・情報科・郷土「なら」科により、教育活動をまとめ・報告・発表する力が育ってきたことは研究発表会アンケート結果からうかがえます。また、家庭・地域・学校の連携による地域ぐるみの活動も 140 名のボランティアの支援を得て充実してきました。

「いろんな方と交流を持つことが楽しいことだと学びました。」「地域の方の気持ちにこたえることができるように、西中をより良くするために私たちも頑張ります。」等の多くの生徒から学校支援に対する感謝の声もあがっています。地域の中で自分たちが活動するという主体性を今後とも確実に継続して育てていきたいと願います。

事業名

# かがやけ右京っ子、癒し、憩える、右京の楽園へようこそ

—ログハウスで集おう—

目標

幼稚園と小学校の連携を深め、地域の一員としての意識を高めるために、積極的に地域活動や連携事業に参加できる子どもを育てる。

## 1. 取組の視点

本校は、今年度から右京幼稚園が併設され、幼小連携に力を入れています。職員間だけでなく、児童と園児が交流する場合は、授業ではもちろんのこと日常の遊びの場でも見受けられるようになっていきます。そこで、小学校が中心になり、地域の活動に児童が積極的に参加したり、地域住民と園児・児童が一体になれる行事を実施したりすることで、地域の一員としての意識を高め、児童の自尊感情も高まると考えました。また、幼小の交流をさらに深めるために、ログハウスをつくり、交流の場を広げていきたいと思いました。

## 2. 取組の概要

### ① 夏休み水泳教室 7 / 26～29

毎年、夏休みは水泳教室を実施していますが、今年度は地域の水泳専門家（保護者）に指導していただきました。のべ150人の児童が参加し、成果をあげました。

### ② 右京地区防災訓練 10 / 23

地域の防災訓練に向けて初めて4・5・6年生がポスターを作成し、地域の掲示板に掲示しました。また、当日は「大声コンテスト」も開催し、24名の園児・児童が参加しました。地域・児童・職員が防災への意識を高めました。



### ③ 焼きいも大会 11 / 9

朝早くからボランティアの方々がかまどの火の準備をしてくださり、約180本のさつまいもを美味しく焼いてくださいました。当日は雨でした

が、80名の児童が参加し、保護者と一緒に楽しく食していました。



### ④ ログハウスづくり 12月～1 / 16

12月に地域の工務店にログハウスを建設していただき、1/16は、学校、地域やボランティアの方々と、御披露目式をしました。その後、幼稚園から1年、2年・・・と順番に色を塗っての仕上げ作業をしました。園児、児童が協力して楽しそうに取り組んでいました。このログハウスで幼小の交流がいつそう深まることでしょう。



## 3. 成果と課題

○今年度から、幼稚園が学校の中に併設され、幼小連携がますます活発になってきました。この事業で、幼小の学習や遊び交流を計画的に実施したり、地域の行事と一緒に参加したりと、連携はかなり進んでいます。○今まで地域の行事に児童が参加することは限られたものだけでしたが、今年度は大きな防災行事にも参加し、地域の一員としての意識も高まったと思います。○地域ボランティアの方々とは園児・児童とふれあうことで生きがいにもされていますが、これからは、地域の高齢化も大きな問題となっていくため、地域とともに事業の工夫も考えていかないとはいけません。

事業名

# 夢を育む子どもの育成

目標

“自分がすき、友達がすき、この町がすき”といえる神功っ子を地域と学校が連携協力して育てていく。

## 1. 取組の視点

子どもたちが“夢を育む”ために必要な「確かな学力」や“心を耕す”ための教育活動を充実させるとともに、学校環境整備（校内の自然環境、図書室の環境、図書読み聞かせ等）の充実を図ります。また、平成 20 年度より小中一貫教育パイロット校として取り組んでいます。小中学校の滑らかな接続とともに、保幼小の連携交流をより豊かにすることにも力を入れてきました。その取り組みは学校支援地域支援本部事業においても様々な支援を受けてきました。本年度もその事業を引き継ぎ、より「開かれた学校づくり」とともに「地域の教育力」を育む取り組みとしたいと思います。

## 2. 取組の概要

### ○学校内環境整備

#### ①学校図書館整備

通年、図書室の図書の整備、環境整備を実施した。「地域で決める学校予算」の地域事業で図書貸出ソフトが、平城西中学校区で統一されたのを受け、パソコンへの入力作業及び蔵書整理を実施しました。学校支援ボランティアとPTAが協力して行うことも出来ました。

#### ②校庭の環境整備

木の剪定・花壇の整備・草刈り・校舎内清掃

○学年ごとに絵本の読み聞かせと図書の充実  
ボランティアグループ「おはなしくレヨン」の方々には、中休みの時間などに本の読み聞かせをしていただきました。

#### ○「移動動物園がやってきた」

平城西中学校・神功幼稚園・神功保育園・右京小学校・右京保育園だけでなく、地域のみなさんな

ど 1200 名あまりの方が来てくださり、生き物とふれあい、動物を大切にする心や夢を育み、子どもたちの心に優しさと思いやり、命を大切にする気持ちが培われました。



### ○ゲストティーチャーの招聘

上記の他に、正倉院出前授業（5年）地域の調べ学習（4年）奈良筆づくり（4年）芸術鑑賞（全校）森林教育（5年）サッカー教室（5年）郷土なら科平城ニュータウンの歴史（6年）世界遺産拓本教室（6年）の活動には、地域の方のご協力をいただきました。



## 3. 成果と課題

○学校教育環境整備（校内自然環境・図書室環境・図書読み聞かせ等）が充実しました。○学校ホームページや学校便りなどによる保護者・地域への事業紹介、進捗状況の発信がさらに進みました。○活動を通してボランティアの方々の協力の下、児童と地域の方々との交流が進みました。さらに、その関わりを深めるための工夫が必要と思います。○学校支援ボランティアの方々がさらに増えることが、地域の活性化にもつながると思います。

事業名

## みんなおいでよ！キラキラ輝く右京っ子

目標

体を動かして楽しい活動ができるような環境づくりの工夫を、幼稚園・地域が協力し推進する。

### 1. 取組の視点

園児のほとんどが核家族で、人とのかかわりが希薄になっています。さらに家庭においては、ゲームをするなどして、一人でも何ら困ることなく生活している現状があります。そのためか、家族や友達と戸外でのびのびと体を動かして遊ぶ経験が少ないように思われ、幼児の体力低下が心配されます。そこで地域の方の協力を得て、幼児が身近な人と一緒に体を動かして活動できる環境を整え工夫することで、楽しさや心地よさを共有したり、優しさや温かさに触れたりして、心も体も、たくましく心豊かに生き生きと活動する幼児の育成を願い取り組みを進めました。

### 2. 取組の概要

地域の方と共に活動する場所を設定し、様々な出会いを楽しみながら人とかかわる力や態度を身に付けたり、共に体を動かす楽しさを味わったりしました。

わらべうた教室ではゲストティーチャーから体を使った伝承遊びを教わり、万年青年クラブの



方たちとゴム跳びや、まりつきなどの昔遊びを楽しみました。

また土曜参観での親子体操教室では、親子の触れ合いやコミュニケーションを図ると共に、幼児の体力向上にもつながるよう、専門の方に体操の指導を受けました。



毎回幼児たちが楽しみにしている柔道教室で

は、受け身などの技のほかに、礼儀作法や不審者対応の護身術、人の話を静かに聞くことの大切さなどを指導していただきました。



1月には園庭にログハウスが完成しました。お披露目式には、地域の方が見守る中、児童と一緒にペンキを塗り、共に完成を喜びました。その後、砂場

や固定遊具などの場と行き来して遊ぶ幼児の姿が見られ、交流の場が広がってきています。

完成したログハウスは児童、未就園児、地域の方と気軽に集い、みんなが交流できるワクワク、ドキドキの嬉しい場となっています。

### 3. 成果と課題

核家族で暮らす園児が多い中、様々な人との触れ合いや心を通わす経験は、人とかかわる楽しさや嬉しさを感じることができ、幼児にとって豊かな体験となりました。また、わらべうた教室では、ゴムやまり等、身近な物を使った昔遊びに、今まで経験したことのない満足感や充実感を味わうことができ、地域の方の優しい笑顔に見守られ生き生きと活動する姿がみられました。地域の方と完成を祝ったログハウスは、様々な人と出会える素敵な場所となっています。今後も幼児の遊びや生活が広がるように活用していきたいと思いません。

事業名

## わくわくどきどき神功っ子

目標

身近な環境や様々な人とかかわり、体験を通して感動を共有し、豊かな心を育む。

### 1. 取組の視点

少子化の影響と社会環境の変化に伴い、幼児は戸外で思いきり体を動かして遊んだり、様々な人や自然とかかわったり、心おどる体験が少なくなってきました。そこで、昨年度より引き続き、園環境整備、絵本環境の工夫、エコカーテン作り、菜園・花壇作り、昆虫の世話等をボランティアの方と協働する機会をもち、豊かな心を育んでいくとともに、この活動に保幼小交流を取り入れ、多様な経験や体験を共有し、学びの芽を育て、小学校以降の学びにつながるよう取り組みました。

### 2. 取組の概要

園内の樹木の剪定・草刈り・花壇や畑の整備が行き届き、園庭がきれいになってきています。



子どもたちの遊び場には、四季折々の花が咲き、心和む環境になってきました。ふれあい菜園では、親子で

栽培をすることで、野菜の生長を楽しみにしたり、世話の仕方を地域の方に教えてもらったりして、コミュニケーションを図ったり、様々な知恵や工夫を学ぶことができました。冬野菜がみごとに生長し、収穫の喜びを味わうこともできました。

保育室前や砂場・虫の広場に作ったヘチマやゴーヤの緑のエコカーテンは、子どもにとって格好の遊び場となり、ごさを敷いて絵本を見たり、わらべうた遊びをしたりして楽しむ姿が見られました。また昆虫（かぶと



虫・くわがた虫)の世話や観察を継続的に行うことで、子どもたちの興味や関心も深まり、命の大切さにも気づくようになりました。また、保幼

小の交流の中で、様々な体験を通し「どうしてだろう」と感じたり「こんなふうにしてみたら」と試したり工夫したり、学びの芽が育ってきました。



図書ボランティアの方と絵本の修理や絵本の部屋の環境を工夫したりすることで、絵本の貸出も充実してきています。また、園庭開放時に、ボランティアの“おはなしくれよん”の方々に絵本や大型絵本等、いろいろなお話を聞く機会をもつことができました。

講師を招聘しての音楽鑑賞（ふれあいコンサート）や未就園児親子・在園児対象の体操は、家庭や地域、ボランティアの方と一緒に演奏を聴いたり、歌ったり体を動かして楽しむ機会になり、豊かな心が育まれました。

講師を招聘しての音楽鑑賞（ふれあいコンサート）や未就園児親子・在園児対象の体操は、家庭や地域、ボランティアの方と一緒に演奏を聴いたり、歌ったり体を動かして楽しむ機会になり、豊かな心が育まれました。



### 3. 成果と課題

身近な環境や様々な人と触れ合う中で、感謝する心やコミュニケーション能力も養われ、豊かな心を育むことができました。

園日より等で取組の概要を知らせたり、園ホームページに広報したりすることで、園教育への関心も高まり、事業を理解してもらえることがつながりました。また、保護者アンケートでは、「感動を共にすることができた」「地域の方と楽しむことができた」等、多くの感想をいただきました。

今後も、保護者や地域の方との触れ合い・保幼小の交流の機会になるような環境の在り方を工夫し、一人一人の幼児が豊かな心を持ち、たくましく生活していけるよう、地域との対話や開かれた園環境の充実を図っていききたいと思います。